



10月1日は日本酒の日

10月1日は収穫された新米を使った新酒が造り始められる時期。
酒造年度は「10月1日から」と定められており、
蔵元ではこの日を「酒造元旦」として祝っています。

私は、お酒が大好き。中でも日本酒が一番。一生かけて全国の全銘柄を飲み干すことを目標にしている。百薬の長を、毎年100銘柄、100の酒器で呑んで、100歳まで生きる「100への挑戦」をしている。

それが、いま病気療養中につき禁酒をしていて、中断している。でもあきらめず、いずれ再スタートしようと思っている。そこで、この機会にこれまで飲んだ銘柄数と今後どれだけ飲んだらよいのか目標数値を明らかにするため、データをチェックしてみた。手元にある「日本酒全蔵元・全銘柄」（平成3年発行・主婦の友社刊）に、飲んだ酒の銘柄をチェックしてきたり、あるいはラベルを収集してきた。これを棚卸してみた。その結果は、次のとおりである。まだ道半ば。病気を早く治して、酒を呑まなければ・・・



日本酒の銘柄数と蔵元数

蔵元数	1,528	蔵
銘柄数	4,145	銘柄
私が呑んだ 銘柄数 2002年から2015年 (13年間)	247	銘柄

定年後、毎年100銘柄/年の酒を呑んできたが、全銘柄の6%しか達成していない。同じメーカーでも酒別により何種類も銘柄を出しているの、重複してしまう。違う銘柄を呑むのは意外と難しい。同じ銘柄でも、本醸造、純米酒、吟醸酒と多酒多様だが、同じメーカーは一銘柄としてカウントした。



蔵元数は国税局清酒製造業の概況（平成25年度調査分）より

銘柄数は、「日本酒全蔵元・全銘柄」（主婦の友社刊）より

私がよく呑んだ日本酒いろいろ

	銘 柄	呑む理由（わけ）
1	澤乃井（東京）	地元（東京）の酒、蔵元を見学。ここの社長とも顔なじみ。
2	おんな泣かせ（静岡）	郷里の酒、同級生友人からプレゼントしてくれる
3	初孫（山形）	初孫が生まれてから、愛飲している。
4	出羽桜（山形）	かつての職場仲間から送られてくる。
5	萩の蔵 天虹（静岡）	わが家の裏隣りに住んでいたご主人が、サラリーマンをやめて、郷里静岡で酒造りをした。近所のよしみで・・・
6	初亀（静岡）	郷里の実家（酒小売業）から土産にもらったり、おくられてきたり、帰郷の折に兄弟で皆で呑むお酒
7	正雪（静岡）	
8	圓塾 大吟醸・古酒圓塾	古稀の祝に息子たちからプレゼントされた私の芸名「圓塾」ラベル
9	七笑（長野）	笑う門に福来たる。笑売繁盛を願って、季節限定で「湧笑」「華笑」「山笑」「里笑」「爽笑」「豪笑」「天笑」といような笑いの酒がある。
10	高尾山（八王子）	毎年、地元・高尾山初詣のたびに呑む。

思わず笑ってしまうネーミングの日本酒（まだ呑んでいないがぜひ呑みたい酒）

1	なるほどうまいすごい酒	名のとおりなるほど美味しくすごいだろうか？
2	あ、不思議なお酒	どんな不思議が？ピンク色に仕上がっているとか・・・
3	タクシードライバー	呑んだら乗るな、乗るなら呑むな、呑むなら呑もう！
4	モヒカン娘	どんなイメージの娘だろう？ 乱れる酒？
5	はげあたま	はげあたまは毛がない＝怪我がないという縁起を担いで・・・
6	最低野郎	酒のみはどうせ最低野郎だ！最高に呑んで暴れてやろう！
7	俺の出番	どんな出番が待っているだろう？飲んで勢いをつけてやれ
8	姥捨（うばすて）正宗	ボケないために、認知症予防に・・・一献
9	ふふふ	ちびりちびりと呑んで「ふふふ」とほくそ笑んでみたい
10	勇気百倍	呑んで勇気百倍、元気千倍、万病に効くだろう・・・

日本酒おもしろ言葉 酒は百薬の長でもあり、過ぎると万病のもとでもある。

きんぎょさけ 金魚酒	薄い酒をいう。水を割って、金魚が泳げるほど薄い酒という説と、飲んでも顔が赤くなるだけという説がある。
さん 三むい	蔵人の間で酒づくりの辛さを表わすのにひそかにささやかれた言葉。「寒い」「煙い」「眠い」の「三むい」である。二番目の「煙い」は、まだ煙突が発明される前のことで、かまどから出る煙が蔵の中に漂っていたのだろう。
兜（かぶと）	兜→武士の装束→太刀の身→立呑み（たちのみ）という連想から生まれた立呑みの隠語。
かく 角うち	「酒屋の店頭で酒を呑むこと」を「角打ち」と言う。もともと、秤り売り用の酒を、枡を借りて縁（枡の角）に乗せた塩をアテに、立ち呑みしていたものであろう。最近、巷で「角うち」「兜」流行しているようだ。いざ出陣！呑みに行こう！
でいすい 泥 酔	お酒を飲みすぎて、たしかにふにゃふにゃになっていると泥のように見えないこともないが、この言葉の由来は、実は中国に伝わる空想上の虫からきています。この空想上の虫の名前は泥（でい）。この虫は、南の海に住んでいる骨の無い生物です。 水の中では生き生きしていても、水がなくなると、酔っぱらったかのようにフニャフニャになって、泥のように積み重なるのだそうです。この虫が水を失った時の状態と、ひどく酔った時の状態がそっくりなため、泥酔とよばれるようになったのです。

飲む・・・ゆっくり飲み込む意。茶、ジュース、味噌汁、ビール、ウイスキーなど。
呑む・・・塊を喉に放り込む感じを表す、「気合いで日本酒」を呑む感じ「ごく、ごく、ごく」と。